

「滋賀の子どもの声調査」 結果概要

令和8年2月

**滋賀県子ども若者部
子ども若者政策・私学振興課**

目次

◆ 調査概要	1
◆ 回答状況・回答者属性	2
◆ 結果概要	
・ 子どもの幸せと満足度	3
・ 自分自身のこと	6
・ 子どもの体験・遊び(1)(2)	7
・ 悩みごと	9
・ 相談相手	10
・ インターネットやSNSでの経験	11
・ 情報の入手先	12
・ 居場所(ほっとする場所、安心する場所)	13
・ 家や学校以外に行きたい居場所	14
・ 家庭での生活状況	15
・ 放課後や休みの日の過ごし方	16
・ 学校での生活状況(1)(2)	17
・ 将来のこと(1)(2)	19
・ 子どもの社会参画・意見表明	22
・ 滋賀県のこと・住んでいる地域のこと	24
・ 滋賀県子ども基本条例の認知度	25

調査概要

「滋賀県子ども基本条例」の趣旨を踏まえ、県内の子どもの意識や状況、意見等を様々な観点から把握し、子どもの声の県政への反映を推進することを目的として実施。

標本調査

調査対象

- ① 県内の小学校（特別支援学校小学部を含む）に通う小学5年生および県内の中学校（特別支援学校中学部を含む）に通う中学2年生の男女約2,200人
- ② 県内在住の平成20年4月2日～平成21年4月1日生まれ（高校2年生世代）の男女1,000人

実施期間

令和7年9月～10月

調査手法

郵送・オンライン併用／無作為抽出

① 令和7年5月1日現在の県独自調査による小学5年生、中学2年生の児童生徒数を母集団情報として用い、県内7地域ごとの児童生徒数に比例して報告者数を割り当て、学級（クラス）単位の無作為抽出により選定

② 住民基本台帳を母集団情報として用い、県内7地域ごとの人口に比例して報告者数を割り当て、無作為抽出により選定

主な調査項目（選択肢中心）

- ・子どもの幸せ実感
- ・悩み事や相談相手
- ・子どもの居場所
- ・家族、家庭、地域について 等

WEB調査

調査対象

県内の小学1年生～大学生世代

実施期間

令和7年7月～8月

調査手法

WEB上で幅広くオープンに実施

<主な周知先>

- ・県および市町教育委員会を通じた各学校への周知
- ・子ども、若者支援団体への周知
- ・すまいる・あくしょん宣言登録企業団体への周知
- ・県HP、SNSへの掲載
- ・広報誌「教育しが（7月号）」への掲載

主な調査項目（自由記述中心）

- ・子どもの幸せ実感
- ・将来に向けて努力したいこと
- ・みんなが笑顔でいるために必要だと思うこと
- ・周りの大人や行政に伝えたい悩み事 等

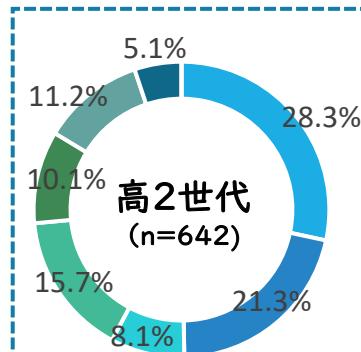
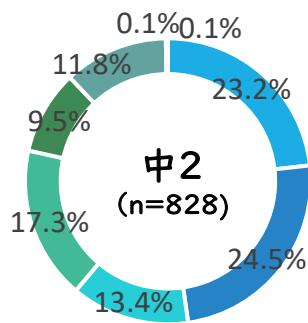
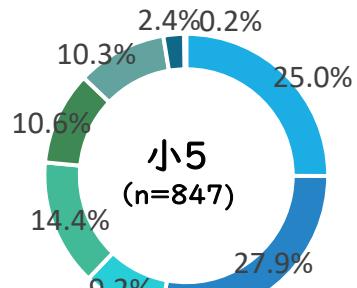
回答状況・回答者属性

標本調査・WEB調査合わせて「延べ約5,000人以上」の子どもたちが回答

標本調査

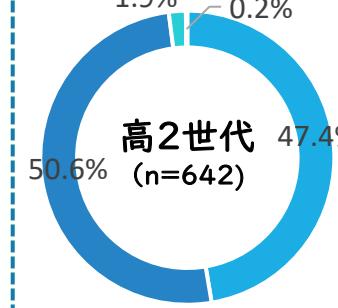
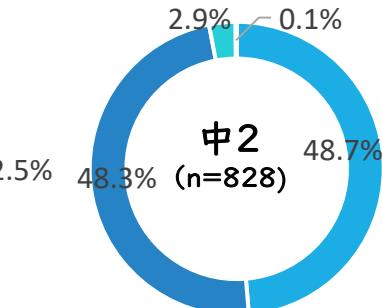
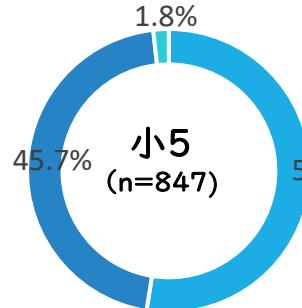
地域

- 大津
- 湖南
- 甲賀
- 東近江
- 湖東
- 湖北
- 湖西
- 無回答



性別

- 男性
- 女性
- その他
- 無回答



学校に所属 98.9%
就労している 0.5%
どちらでもない 0.6%

※小5:847人／1,062人(79.8%回答) 中2:828人／1,134人(73%回答) 高2世代:642人／1,000人(64.2%回答)

WEB調査

その他
49

大学生
35

中学生・高校生

2029

小学4年生～6年生

791

小学1年生～3年生

0

500

1000

1500

2000

2500 (件)

子どもの幸せと満足度

- ✓ 「幸せ」と感じている子どもの割合は高いが、年齢が上がるにつれて「7~10点」と回答した子どもの割合は減少。
- ✓ 「身体の健康・こころ・家庭・学校・地域」の全ての項目において幸せ度の高さと関係が見られた。

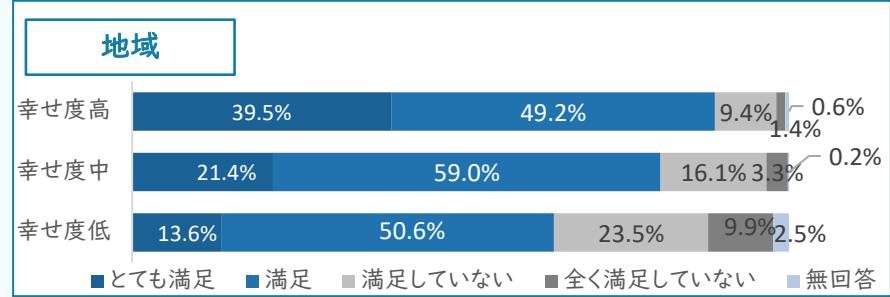
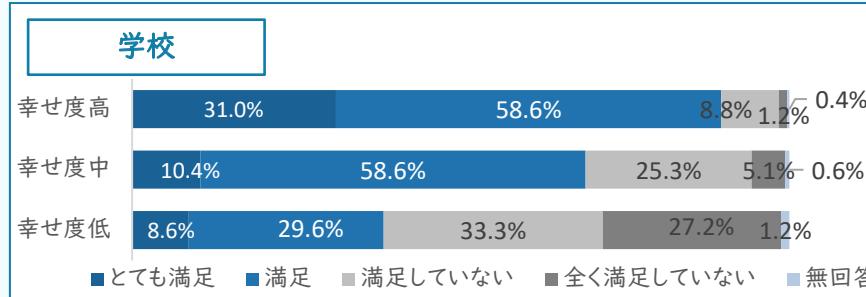
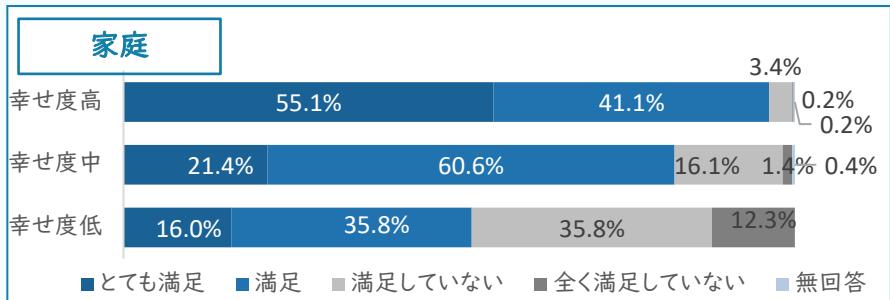
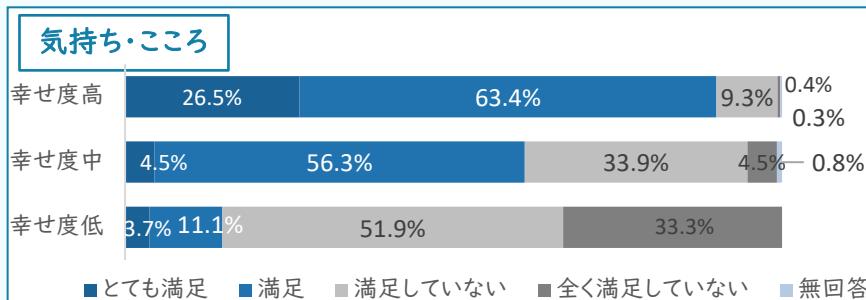
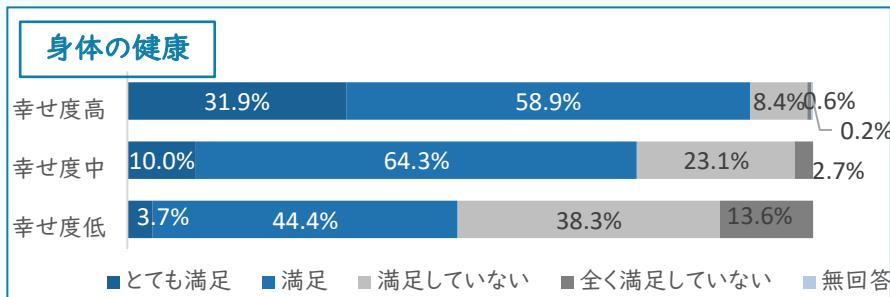
標本調査

「幸せ度」と「身体の健康・気持ち・家庭・学校生活・地域」それぞれの満足度との関連性は以下のとおり

【問】今感じるしあわせについて、「とてもしあわせ」を10点、
「全くしあわせでない」を0点とすると、何点くらいになると思うか。

※無回答を除く

幸せ度	小5(平均8.1) (n=837)	中2(平均7.4) (n=814)	高2世代(平均7.2) (n=619)
高:7~10点 (n=1699)	82.6%	70.5%	70.1%
中:4~6点 (n=490)	15.3%	25.1%	25.5%
低:0~3点 (n=81)	2.2%	4.4%	4.4%



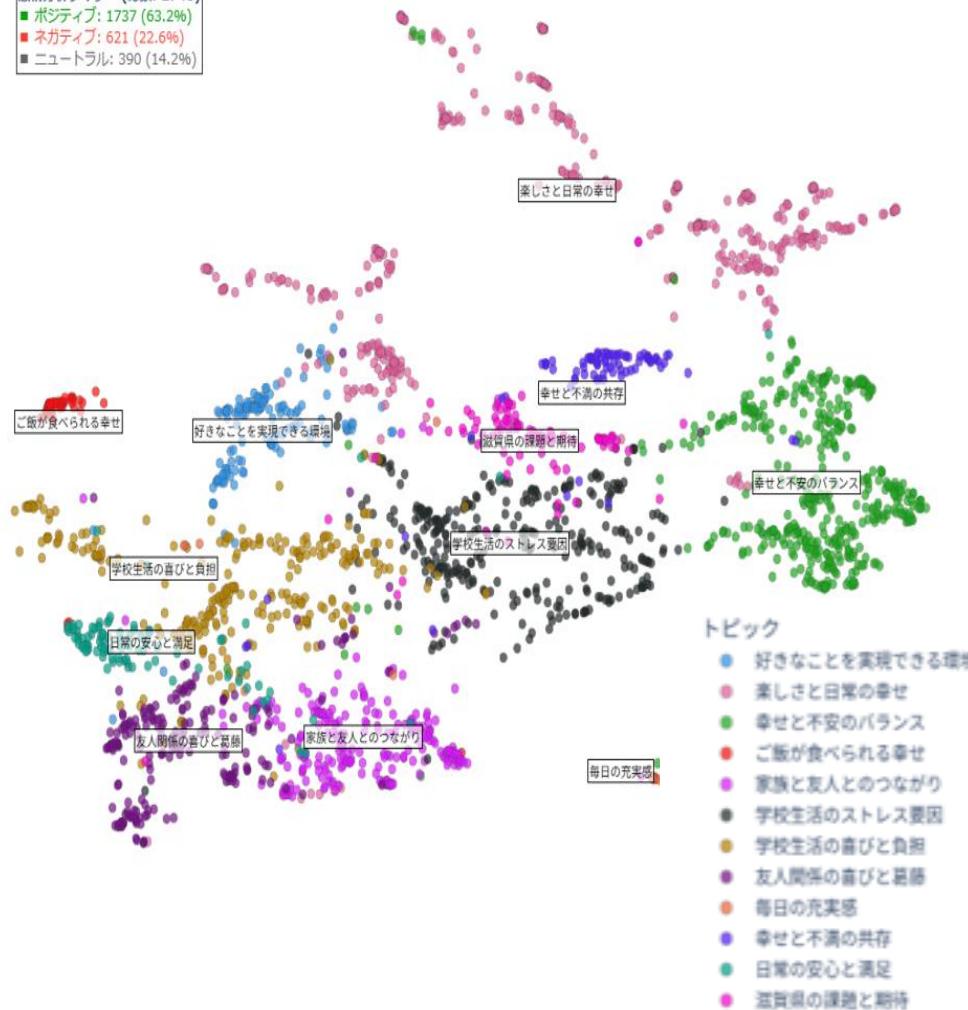
WEB調査① 自分自身の幸せの要因

生成AIによる自由記述分析結果

Q 関心の集中

メイン観点: 楽しさと日常の幸せ (643件)

日々の何気ない楽しさや日常の小さな喜びに感謝し、幸せを感じる意見が最多であり、日常を大切にする姿勢が見られる。



④ ポジティブ要素

メイン観点: 楽しさと日常の幸せ (607件)

毎日の生活における些細な楽しみや充実感に対し、前向きな満足感を示す声が集中している。

⑤ ネガティブ要素

メイン観点: 学校生活のストレス要因 (290件)

学業や校則、対人関係など、学校生活における悩みや不満の声が見られた。

△ 世代間ギャップ

低学年は純粋な日常の喜びを挙げる一方、中高生は学業や将来への不安、学校生活の重圧など、幸せと悩みの共存について言及する傾向が見られた。

◎ 要約

日常の些細な喜びや良好な人間関係に幸せを感じる意見が主流だが、成長に伴い学校生活の多忙さや将来への不安が見て取れる。

内面的な充足と環境的ストレスのバランスが幸福の鍵を握っている。

WEB調査② みんなの笑顔のために必要なこと

生成AIによる自由記述分析結果

Q 関心の集中

メイン観点:行動の心掛け(1241件)

自分自身の行動や日頃の意識を見直し、周囲に良い影響を与えようとする

意見が最も多く、一人ひとりが自覚を持つことを重視する傾向。

① ポジティブ要素

メイン観点:行動の心掛け(911件)

自発的な行動や前向きな姿勢が笑顔の連鎖を生むという、個人の行動変容が

もたらすポジティブな波及効果に多くの共感が集まっている。

② ネガティブ要素

メイン観点:行動の心掛け(19件)

理想の振る舞いを継続することの難しさや、周囲との温度差など、個人の努力だけでは解決しきれない葛藤が見受けられる。

④ 世代間ギャップ

低学年は「人を傷つけない」等の具体的な行動規律を重視し、高学年以上

は「他者への配慮」や「自ら笑顔を届ける」といったより主体的な関わり合

い・働きかけについて言及する傾向が見られた。



◎ 要約

笑顔あふれる社会には、個人の良識ある行動と思いやりの実践が不可欠であると広く認識されている。

単にルールを守るだけでなく、自ら他者に働きかける主体的な姿勢が、幸福なコミュニティ形成の基盤として重要だと考える傾向が見られる。

自分自身のこと

- ✓ 自己肯定感、将来への希望、困難に対する前向きな姿勢は、年齢とともに減少傾向。
- ✓ 全体の傾向としては、こども家庭庁による全国調査(R4)とおおむね一致

標本調査

小5(n=847) 中2(n=828) 高2世代(n=642)

【問】今の自分が好き



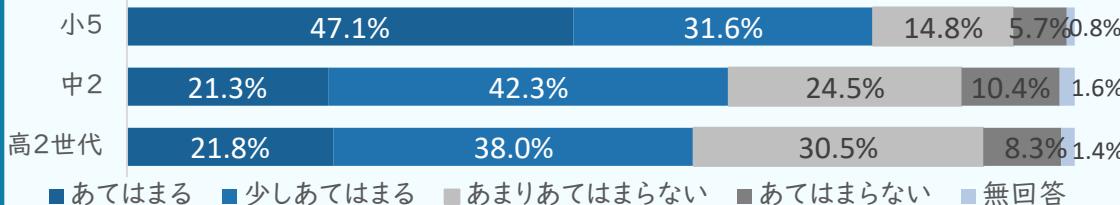
【問】うまくいかないことにも頑張って取り組む



【問】自分の考えをはっきり相手に伝えることができる



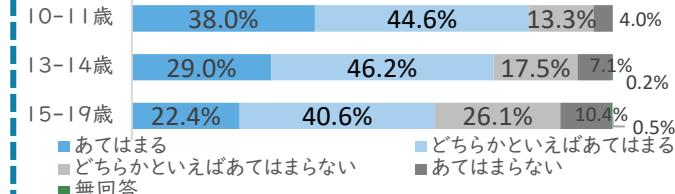
【問】自分の将来について明るい希望がある



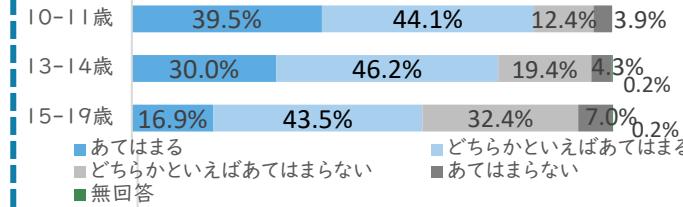
全国調査

こども家庭庁「R4こども・若者の意識と生活に関する調査」調べ

【問】今の自分が好き



【問】うまくいかないことにも頑張って取り組む



【問】自分の考えをはっきり相手に伝えることができる



【問】自分の将来について明るい希望がある



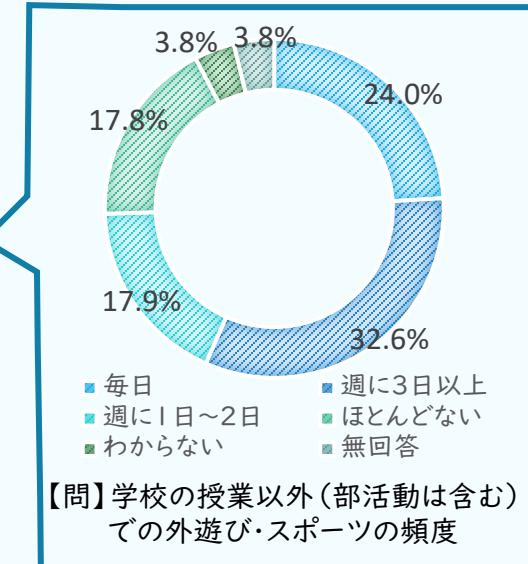
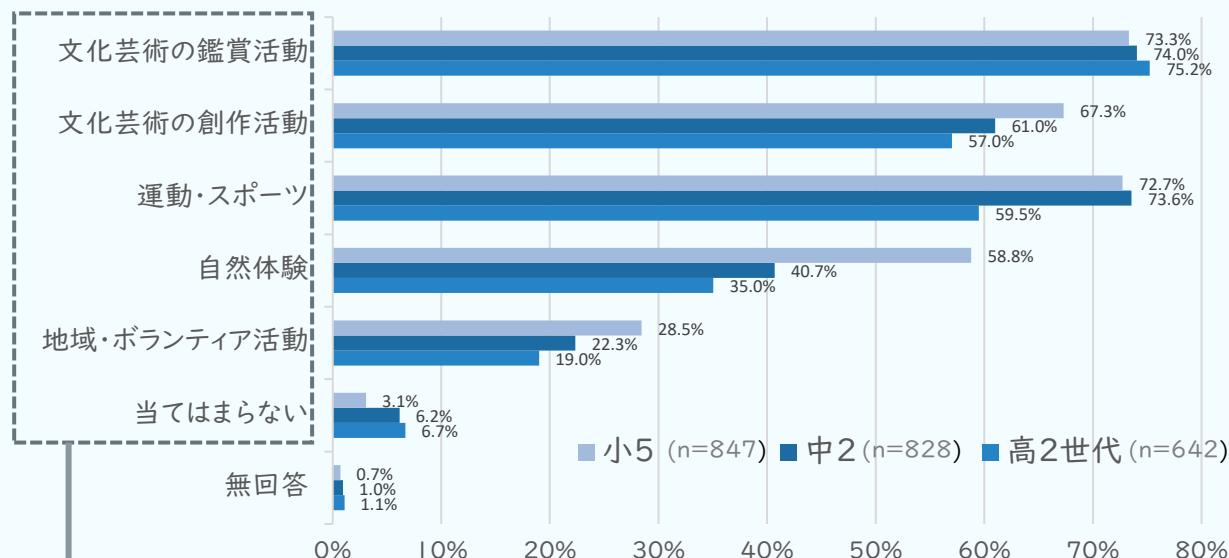
10-11歳(n=623) 13-14歳(n=604) 15-19歳(n=1293)

子どもの体験・遊び（Ⅰ）

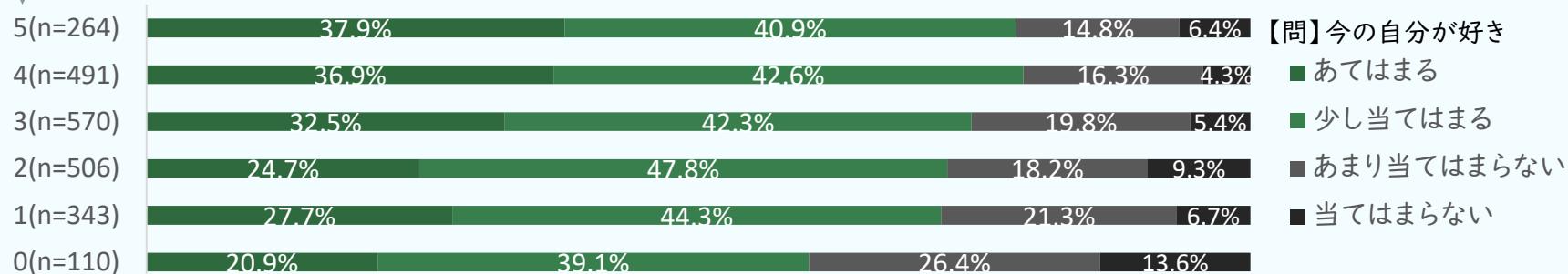
- ✓ 全世代で特に「文化芸術活動・スポーツ」に取り組んでいる割合が大きい。
特に、「体を動かすこと」については、7割以上の子どもが週に1日以上実施。
- ✓ 学校の授業以外で取り組んだ活動の種類が多いほど、自己肯定感が高くなる傾向。

標本調査

【問】過去1年以内に、学校の授業以外で取り組んだこと(複数回答・部活動は含む)



取り組んだ活動の種類の数と自己肯定感との関係

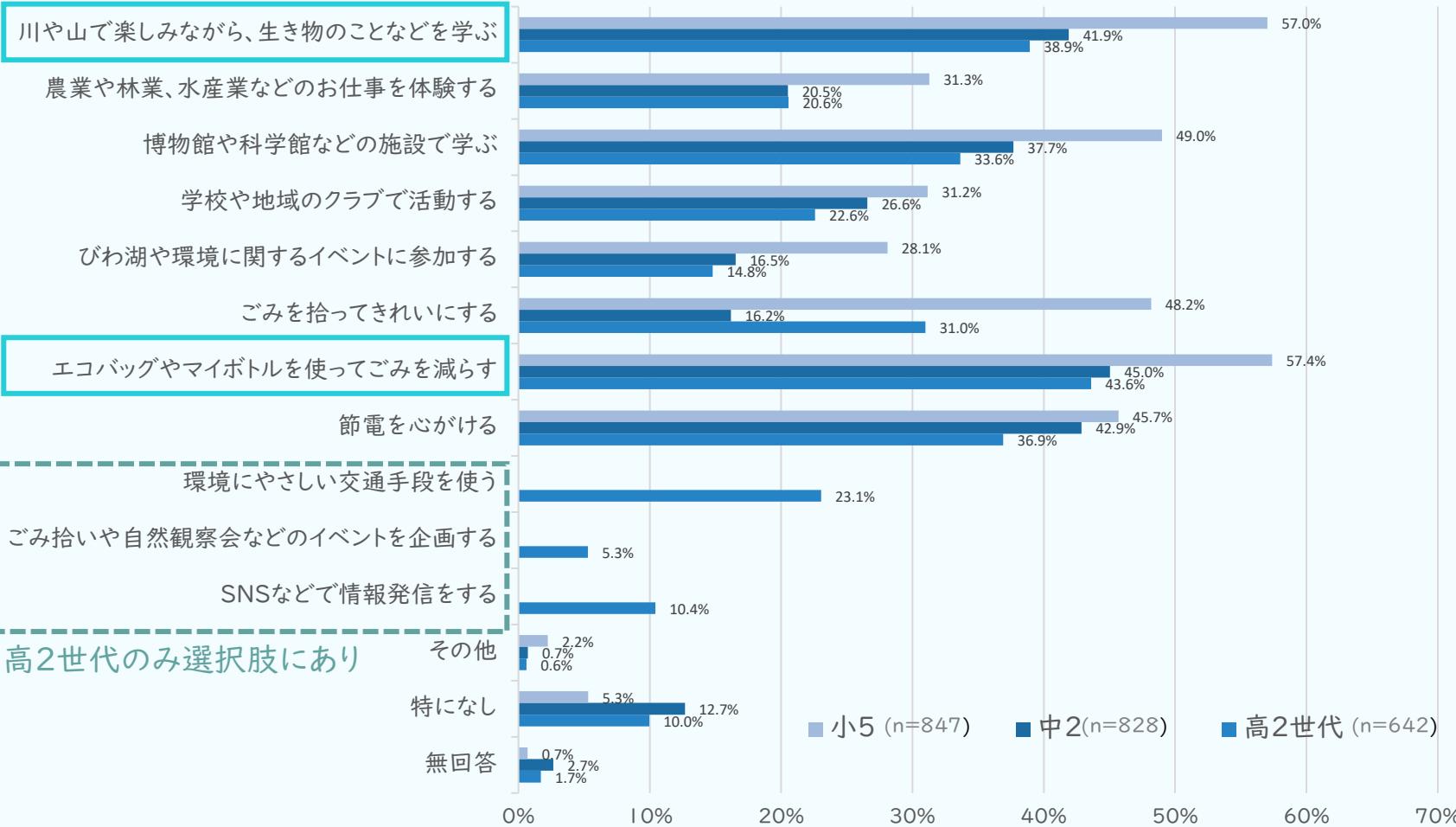


子どもの体験・遊び（2）

- ✓ びわ湖や自然保護に関してやってみたいことについては、全世代で「エコバッグやマイボトルを使ってごみを減らす」の割合が最も大きく、次いで「川や山で楽しみながら生き物のことなどを学ぶ」と回答した割合が大きい。

標本調査

【問】びわ湖や自然を守るためにやってみたいと思うこと（複数回答）

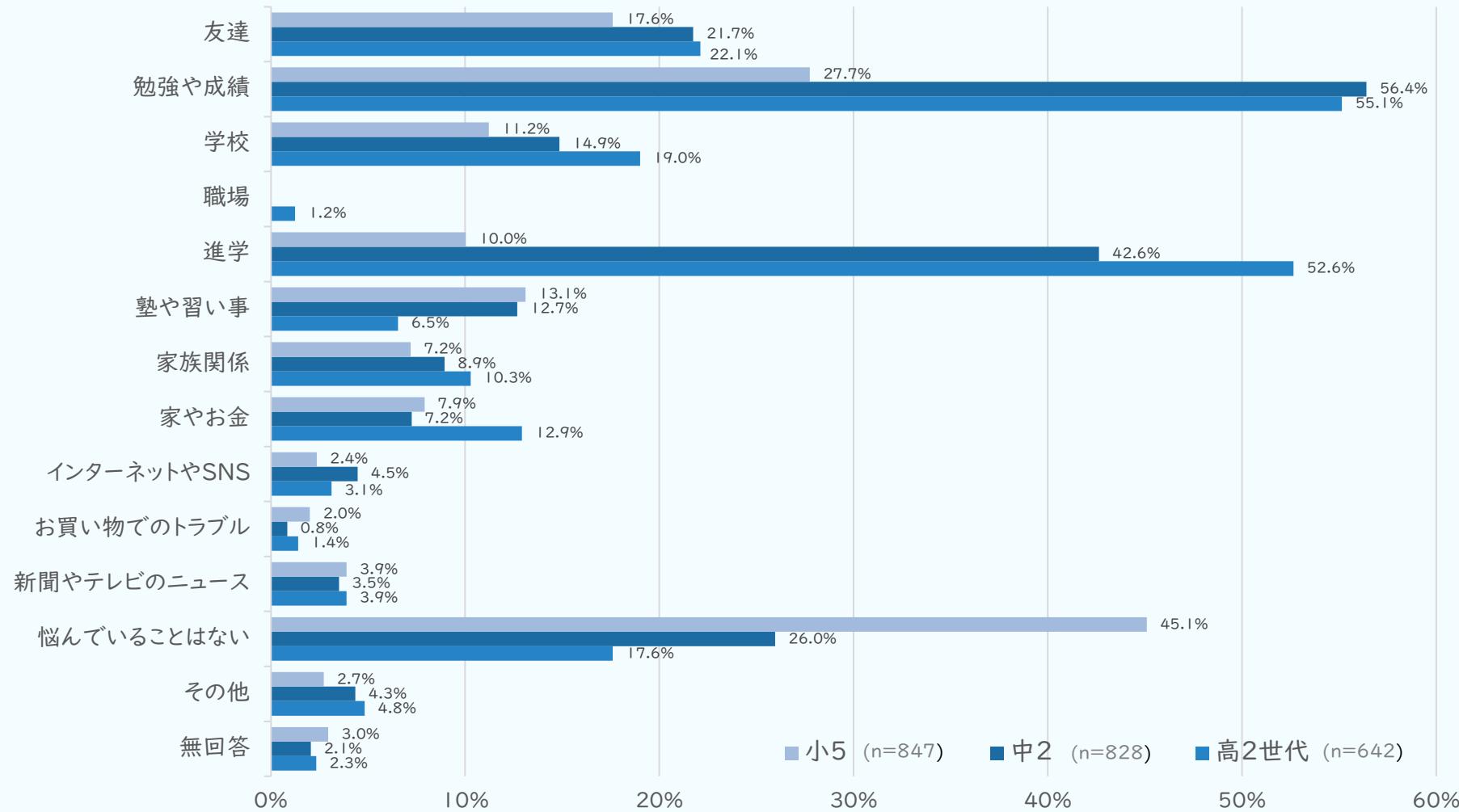


悩みごと

- ✓ 年齢が上がるにつれ「悩んでいることはない」と回答する割合は減少。
- ✓ 中学生・高校生世代になると、「勉強や成績」「進学関係」の割合が顕著に増加。

標本調査

【問】あなたは今、悩んでいることはありますか。(複数回答)



相談相手

- ✓ 悩み事がある場合の相談相手は、全世代で「父親・母親」が最も多く、次いで「学校の友達」が続く。小学生は「学校の先生」の割合も大きい。
- ✓ 家庭・学校に相談先があることと幸せ度との関連性が大きい。また、幸せ度を「0~3点」と回答した子どもは、「誰にも相談しない」割合が30.3%と高い傾向。

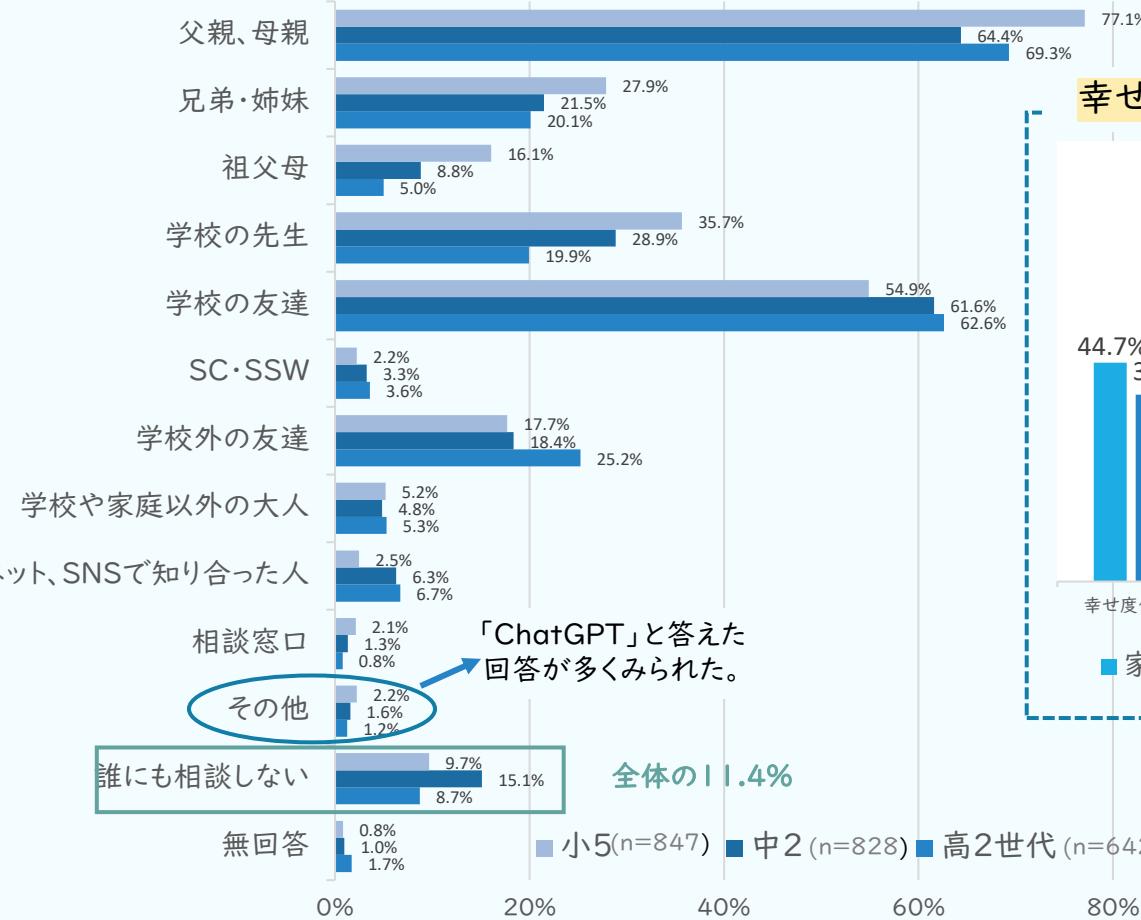
標本調査

【問】悩み事がある場合、相談する相手は誰ですか。(複数回答)

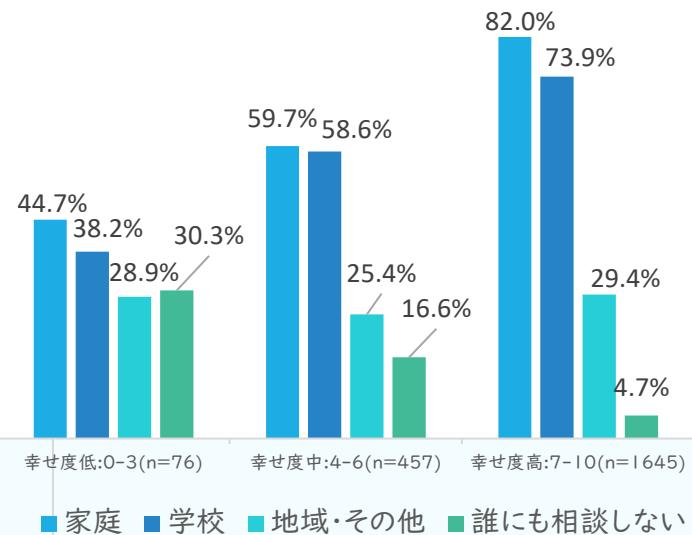
家庭

学校

地域
・
その
他



幸せ度(低・中・高)別の相談先の構成比

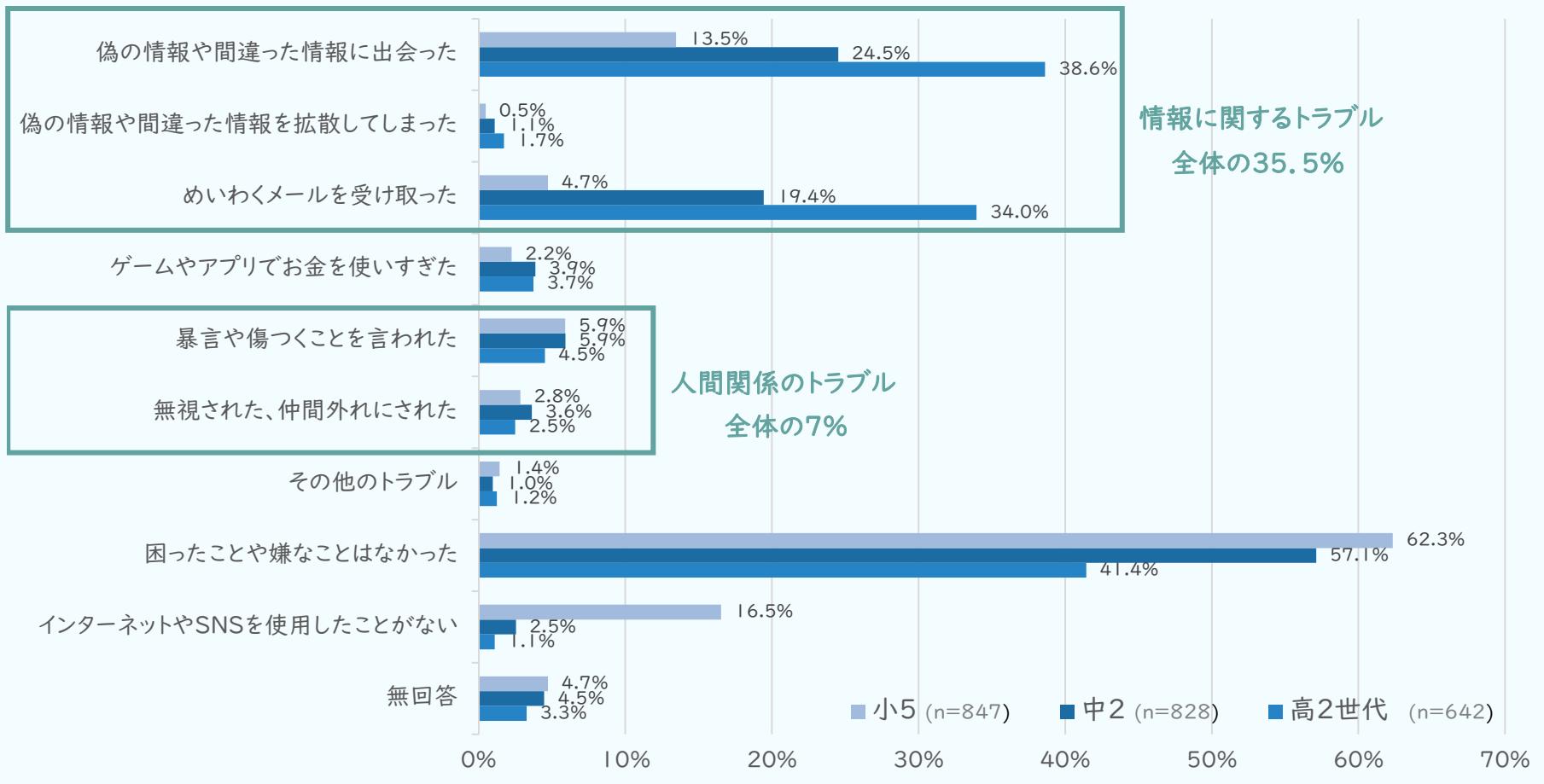


インターネットやSNSでの経験

- ✓ 年齢が上がるとともに、「困ったことや嫌なことはなかった」と回答した割合は減少し、情報や人間関係における多様なトラブルに遭遇するリスクが増大する傾向。

標本調査

【問】過去1年以内のインターネットやSNSでの経験について(複数回答)

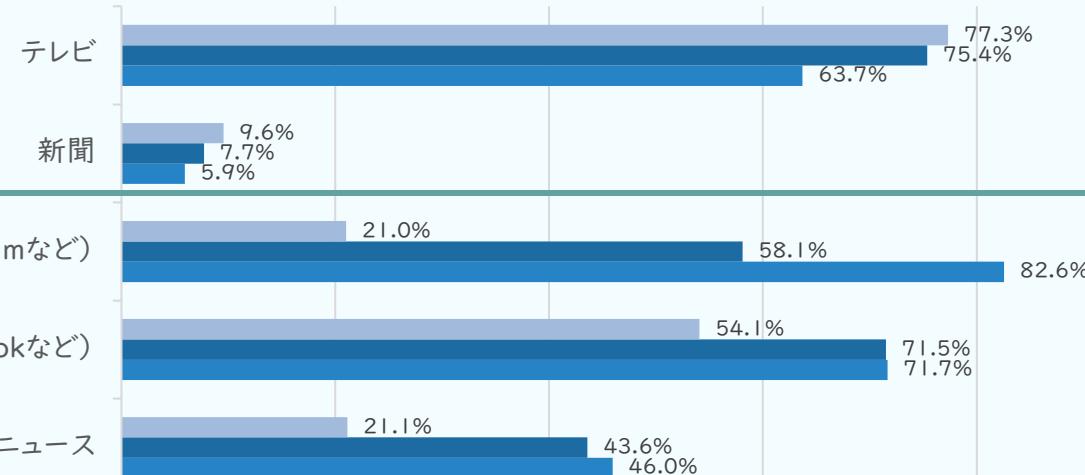


情報の入手先

- ✓ 普段の情報の入手先は、世代間で大きく異なり、小学生は「テレビ」や「家族や友達」の割合が大きいが、中学生・高校生世代は「SNS」「動画サイト」「ネットニュース」の割合が大きい。

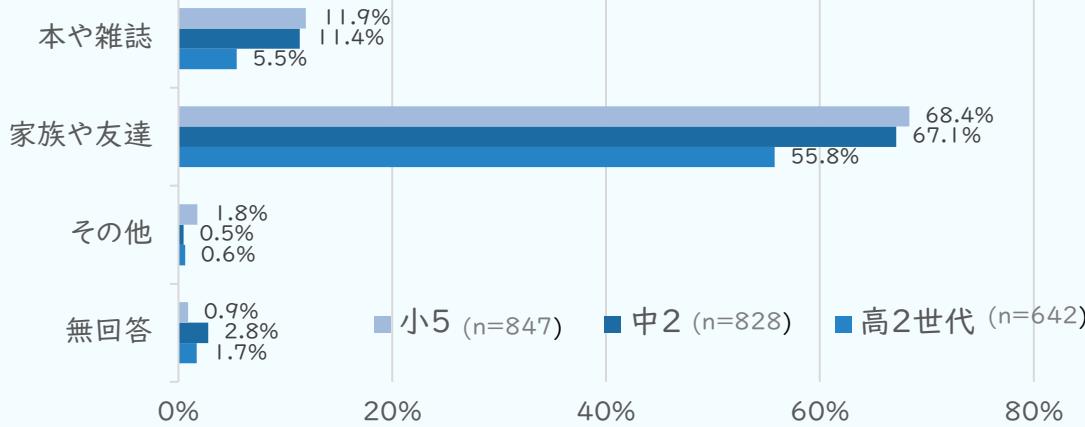
標本調査

【問】普段の情報は、どこで手に入れことが多いか(複数回答)



【問】どのアプリを一番使うか
(自由記述回答) (n=1873)

1位	YouTube	35.9%
2位	TikTok	21.5%
3位	Instagram	12.1%
4位	X	8.0%

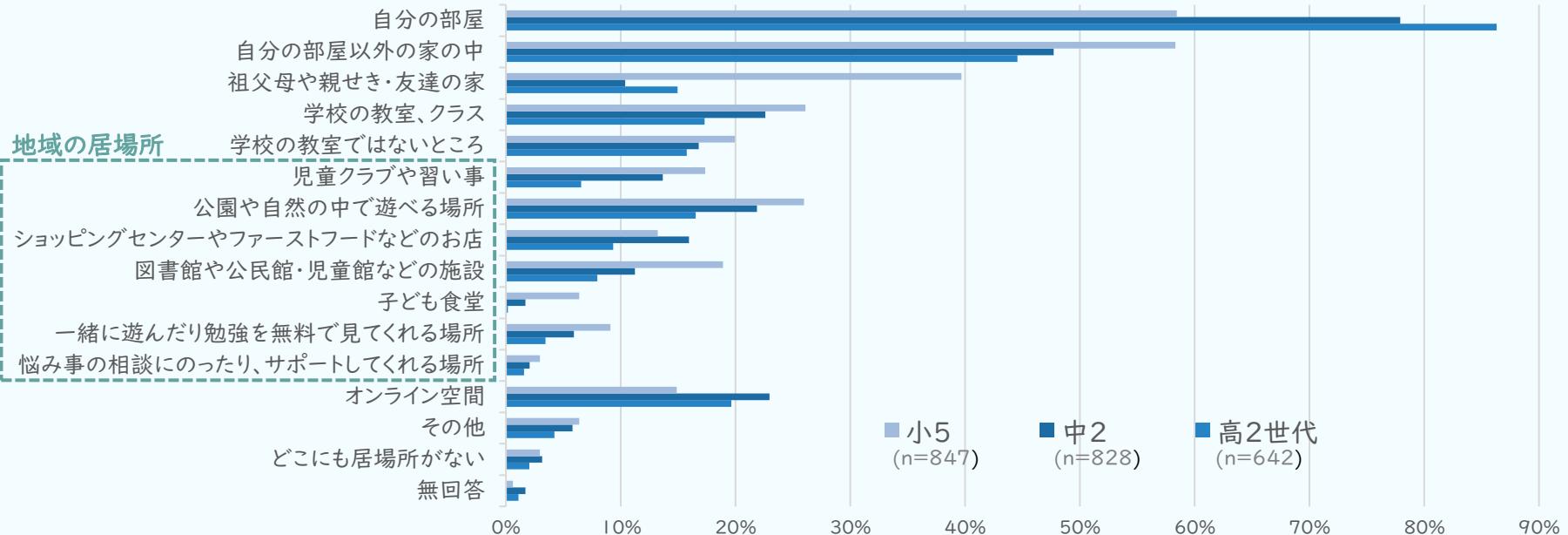


居場所（ほっとする場所、安心する場所）

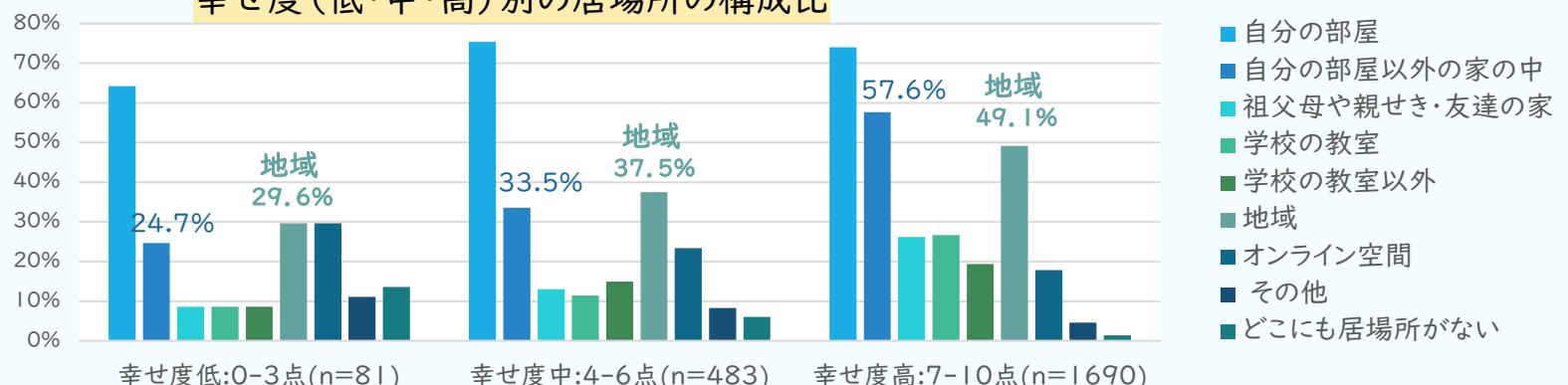
- ✓ 「家中の中」が主要な居場所であり、年齢が上がるにつれて「オンライン空間」の割合も大きくなる。
- ✓ 幸せ度が高い子どもは、「自分の部屋以外の家中の中」や地域に居場所がある割合が大きい傾向があり、幸せ度が低い子どもは自分の部屋以外に居場所がない傾向が見られる。

標本調査

【問】あなたには、「ここに居たい」と感じる居場所があるか。それはどんな場所か。(複数回答)



幸せ度(低・中・高)別の居場所の構成比

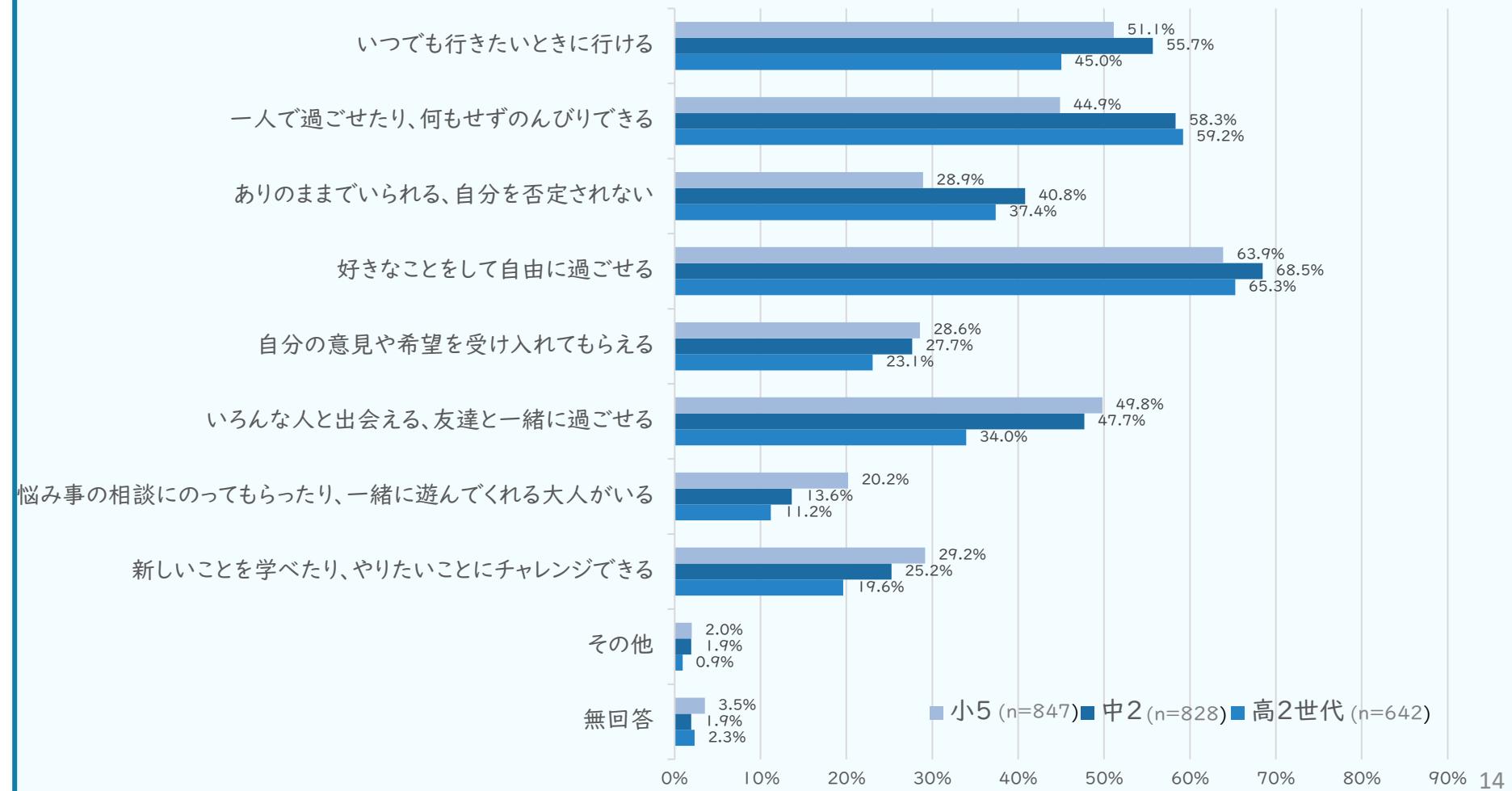


家や学校以外に行きたい居場所

- ✓ 「好きなことをして自由に過ごせる場所」が全世代で共通してニーズが最も大きい。
- ✓ 世代間比較を行うと、小学生は「大人への相談」、高校生世代は「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」ことを希望する割合が大きい。中学生は、「一人で過ごす」ことのニーズが高まる一方、「人との出会いや友人との交流」を求める割合も依然として大きく、多様なニーズが混在していることがわかる。

標本調査

【問】 家や学校以外に、行ってみたいと思える居場所はどのような場所か。(複数回答)



家庭での生活状況

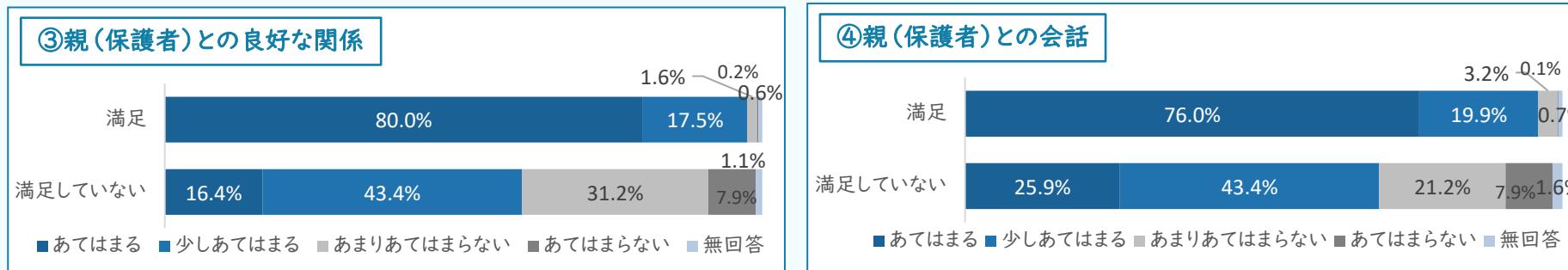
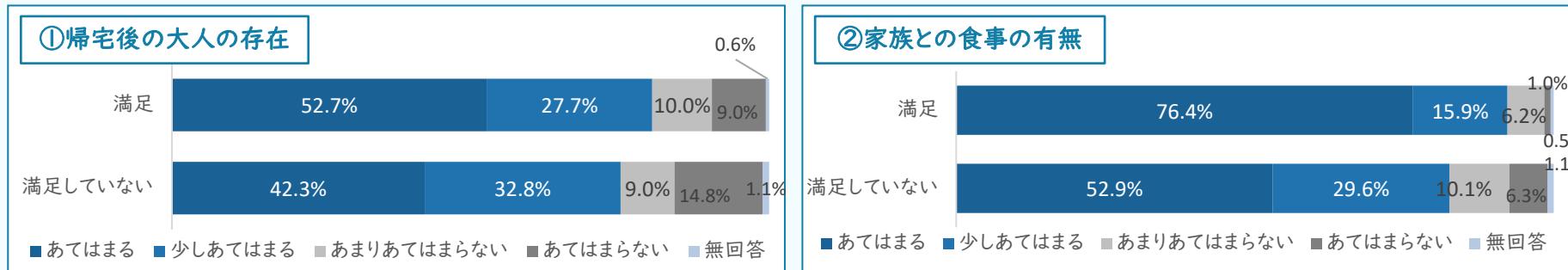
- ✓ 「家庭の満足度」が高い子どもは、親(保護者)との良好な関係や十分な会話があり、家族との食事の頻度が高い傾向が見られる。

標本調査

【問】以下についてどれくらい当てはまるか	小5		中2		16・17歳	
① 学校や職場から帰ると、家には大人がいる	50.3%	27.3%	44.1%	32.1%	63.1%	23.5%
② 家族と一緒にごはんを食べることが多い	85.6%	10.5%	73.4%	18.1%	59.8%	24.0%
③ 親(保護者)との関係は良好	79.9%	15.0%	71.1%	22.5%	71.5%	21.5%
④ 親(保護者)との会話は足りている	75.7%	18.4%	71.9%	22.0%	65.3%	26.0%

■ 当てはまる ■ 少し当てはまる

「家庭の満足度」における①～④の回答の構成比



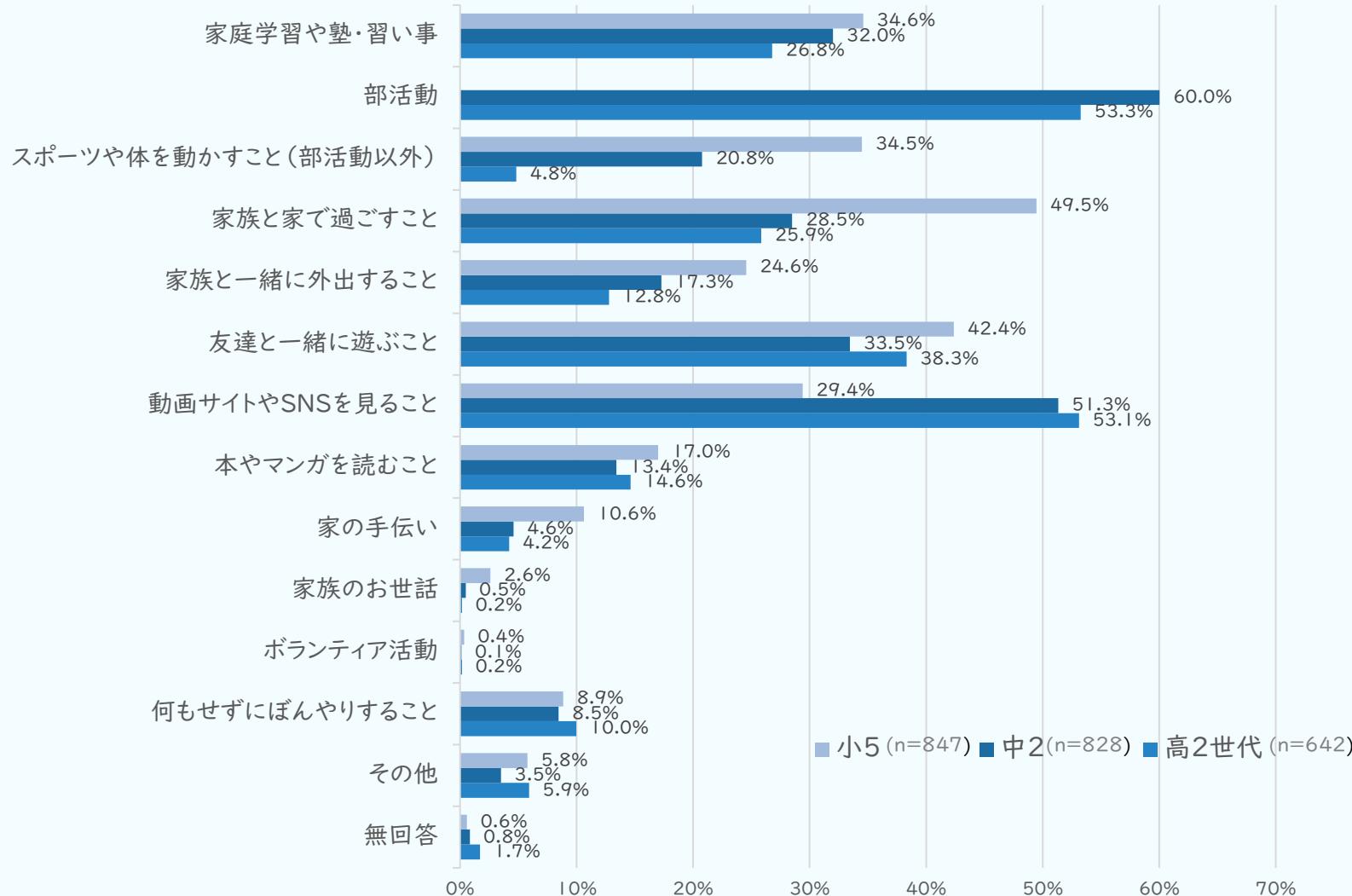
※「満足(n=2104)」=「とても満足」「満足」の合計 / 「満足していない(n=189)」=「満足していない」「全く満足していない」の合計

放課後や休みの日の過ごし方

- ✓ 小学生は、「家族と家で過ごすこと」や「友達と一緒に過ごすこと」の割合が大きく、中学生・高校生世代になると、「部活動」に次いで「動画やSNSを見ること」の割合が大きくなる。

標本調査

【問】 放課後や休みの日、どのようなことに多く時間を使うか。(複数回答)



学校での生活状況（Ⅰ）

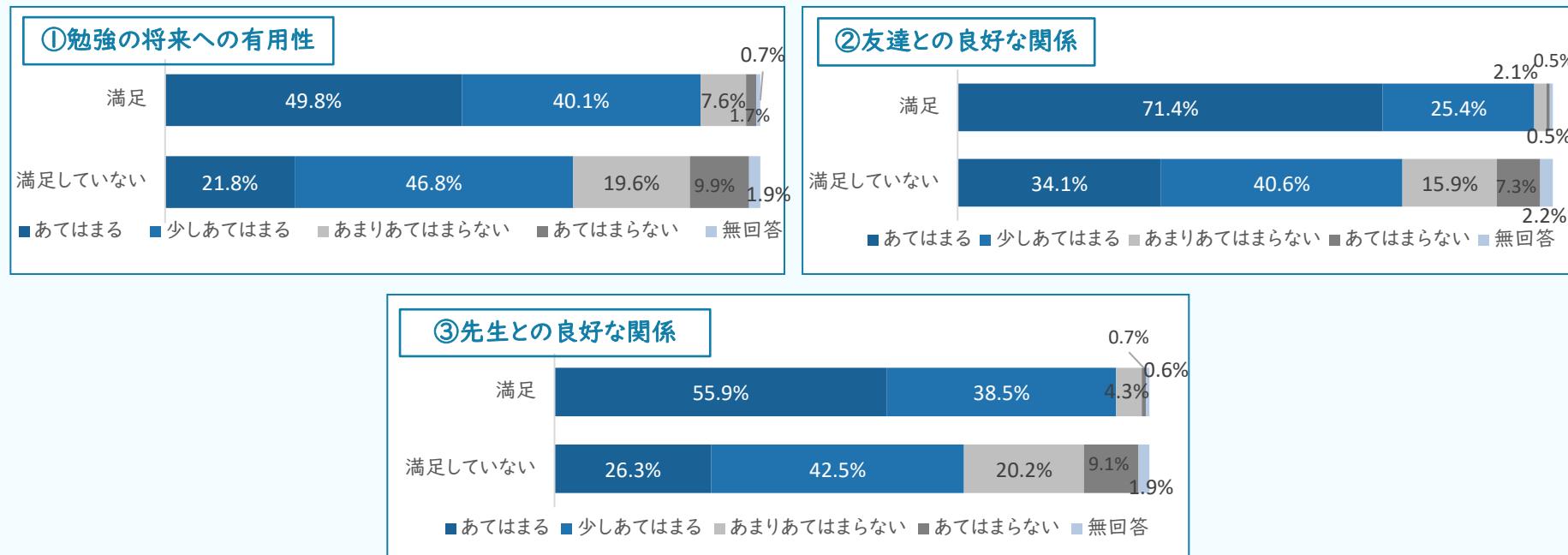
- ✓ 学校生活の満足度は、友達・先生との良好な関係、学習の有用性と関連している。特に「満足している」と回答した子どもの約9割がこれらを肯定。しかし、学年が上がるにつれて肯定する子どもの割合は減少傾向にある。

標本調査

【問】以下についてどれくらい当てはまるか	小5		中2		高2世代	
① 学校で学んでいることは、自分の将来に役に立つ	55.6%	33.1%	39.9%	44.9%	37.5%	46.0%
② 友達との関係は良好である	73.8%	21.7%	59.8%	32.6%	59.7%	29.6%
③ 学校の先生との関係は良好である	53.5%	35.5%	50.6%	40.8%	47.2%	40.6%

■ 当てはまる ■ 少し当てはまる

「学校生活の満足度」における①～③の回答の構成比



※「満足(n=1910)」＝「とても満足」「満足」の合計 / 「満足していない(n=372)」＝「満足していない」「全く満足していない」の合計

学校での生活状況（2）

- ✓ 学校生活の満足度は、意見表明のしやすさ、学校改善への関与、ICTの学習有用性、障害のある人もない人も学びやすい環境といった要因と強く関連。「満足していない」と回答した子どもは、特に学級内での意見の出しやすさや学級や学校の改善への関与に課題を感じている傾向。

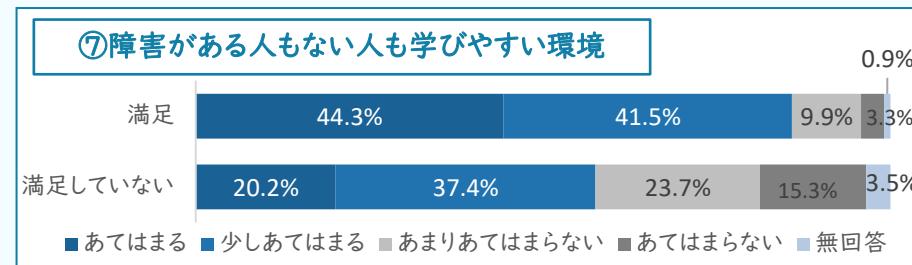
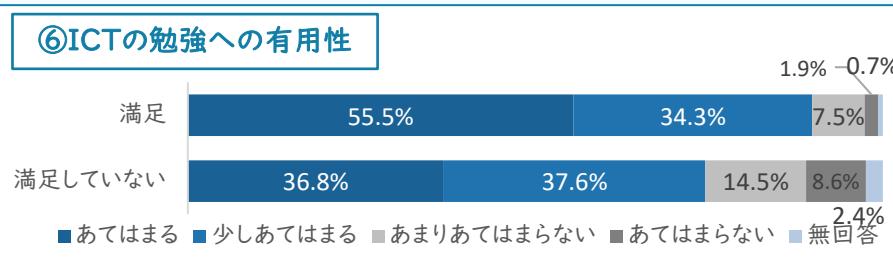
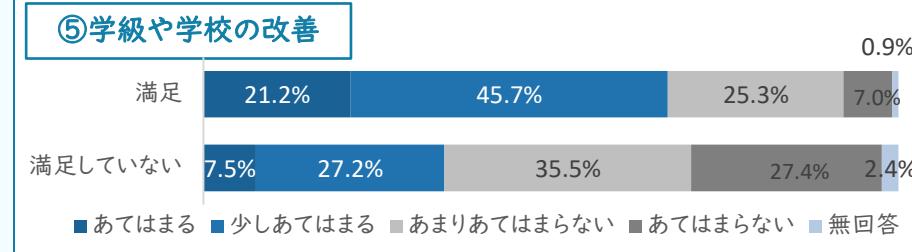
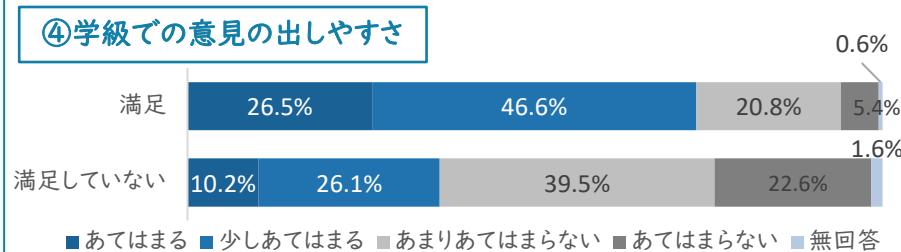
標本調査

【問】以下についてどれくらい当てはまるか	小5		中2		高2世代	
④ 自分の意見を学級等で出しやすい	27.2%	41.1%	23.2%	45.2%	19.8%	42.8%
⑤ 自分や仲間の意見や行動で、学級や学校をより良く変えられる	24.1%	42.0%	17.3%	44.2%	13.9%	40.2%
⑥ 学校でICTを使うことは勉強の役に立っている	59.6%	30.1%	47.0%	40.0%	48.5%	34.0%
⑦ 学校は、障害のある人もない人も学びやすい環境になっている	55.0%	35.4%	36.7%	44.7%	24.7%	42.5%

「学校生活の満足度」における④～⑦の回答の構成比

■ 当てはまる

■ 少し当てはまる



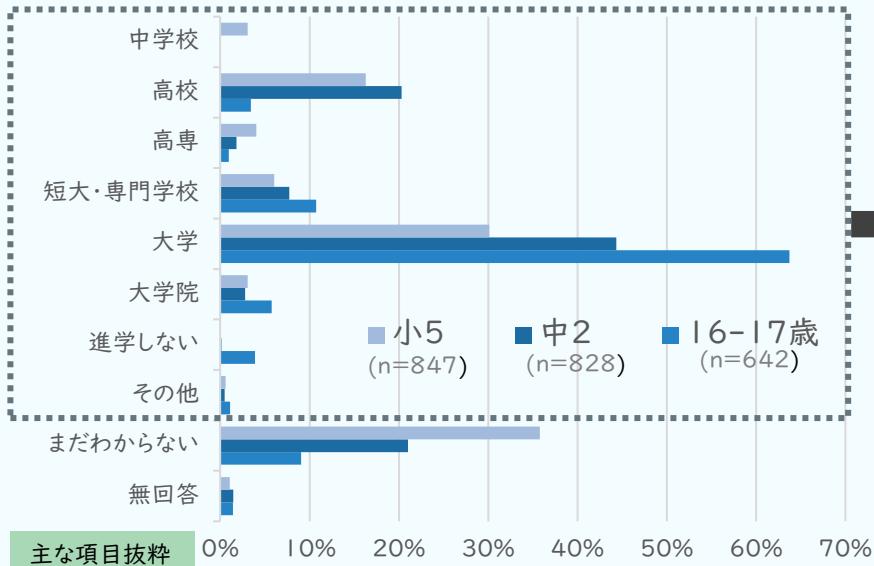
※「満足(n=1910)」=「とても満足」「満足」の合計 / 「満足していない(n=372)」=「満足していない」「全く満足していない」の合計

将来のこと（Ⅰ）

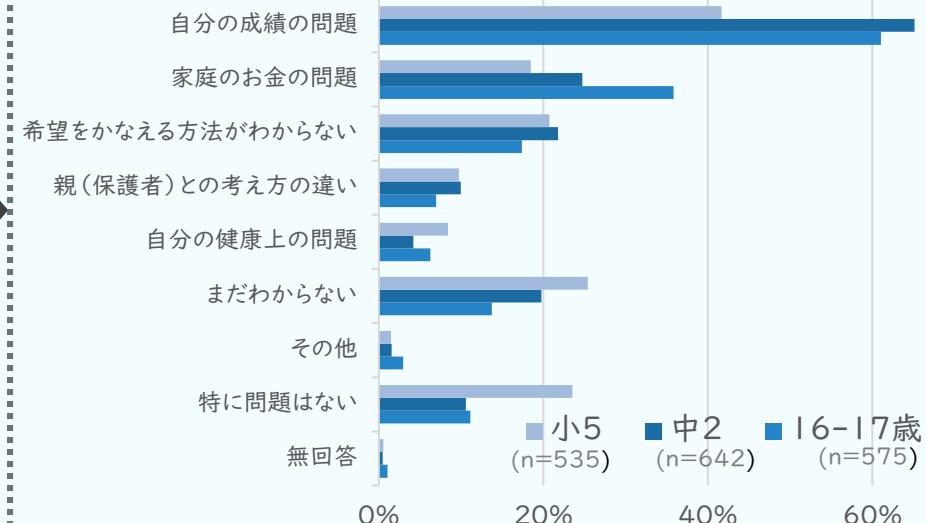
- ✓ 大学進学志望が高く、成績・家庭の経済状況が希望を実現するに当たっての主要な課題となる。
- ✓ 20年後の暮らしでは、全世代で「経済的安定」の回答割合が大きい。また、小学生に比べ、中学生・高校生世代では、「自由にのんびり暮らす」や「結婚／パートナーと暮らす」ことへの関心が高まる傾向。

標本調査

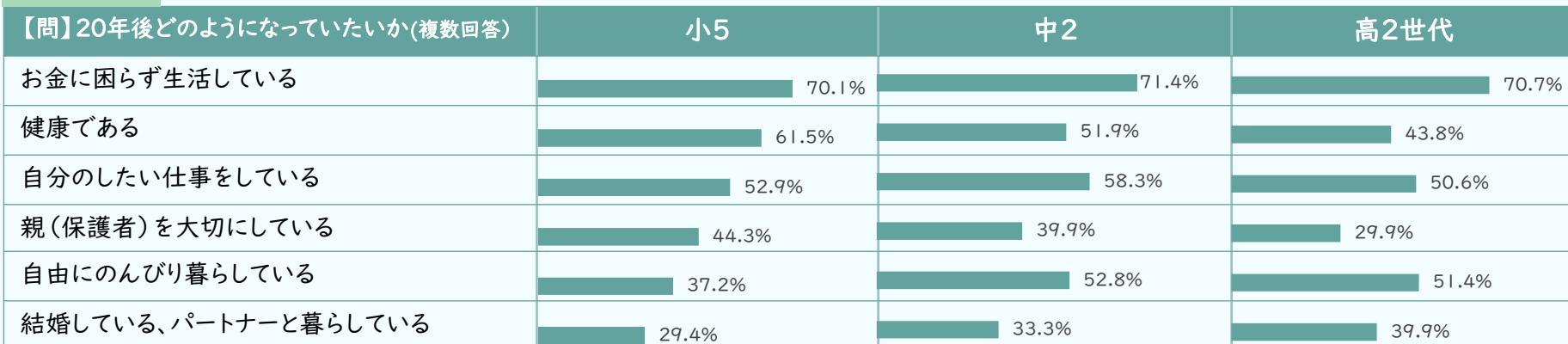
【問】将来どこまで進学したいか



【問】希望を実現するに当たっての問題



【問】20年後どのようになっていたい（複数回答）



※「お金に困らず生活している」「自由にのんびり暮らしている」「世界で活躍している」「多くの人の役に立っている」「有名になっている」「子どもを育てている」「親(保護者)を大切にしている」「結婚している、パートナーと暮らしている」「自分のしたい仕事ができている」「外国に住んでいる」「自分自身に満足している」「健康である」「その他」(5つまで回答)から選択の多かった項目を抜粋

将来のこと（2）

- ✓ 大人になって家庭を持った場合の男女の役割分担については、全世代で「男女で同じように担う方がよい」という意見が最多であり、男性よりも女性の方が割合が大きい傾向にある。また、年齢が上がるにつれて「男女で同じように担う方がよい」という意見が増えるなど、役割分担の意識に変化が見られる。

標本調査

【問】あなたが大人になって家庭を持った場合、「仕事」と「家事・育児・介護」の役割について、どのようにしたらよいと考えるか。

仕事

		主に男性／どちらかといえば男性	男女で同じように担う方がよい	主に女性／どちらかといえば女性	その他／わからない／無回答
小5 (n=832)	男性	36.6%	40.2%	0.4%	22.7%
	女性	15.8%	59.7%	2.1%	22.5%
中2 (n=803)	男性	34.0%	46.4%	0.2%	19.4%
	女性	13.0%	71.3%	1.5%	14.3%
高2世代 (n=629)	男性	28.9%	56.3%	0.0%	14.8%
	女性	13.8%	77.8%	0.6%	7.7%

家事・育児・介護

		主に男性／どちらかといえば男性	男女で同じように担う方がよい	主に女性／どちらかといえば女性	その他／わからない／無回答
小5 (n=832)	男性	11.0%	52.6%	13.9%	22.5%
	女性	2.6%	63.3%	14.2%	19.9%
中2 (n=803)	男性	7.2%	60.8%	12.9%	19.1%
	女性	1.5%	74.5%	10.3%	13.8%
高2世代 (n=629)	男性	2.3%	71.7%	11.8%	14.1%
	女性	1.2%	80.6%	10.2%	8.0%

WEB調査③ これから頑張りたいこと

生成AIによる自由記述分析結果

Q 関心の集中

メイン観点:挑戦への意欲(1170件)

自己成長や社会貢献を見据え、多岐にわたる分野で自ら積極的にチャレンジしようとする前向きな姿勢が見られる。



トピック

- スポーツ選手への道
- 挑戦への意欲
- 学習の積み重ね
- 海外への憧れと旅行願望
- 来年の将来への迷い
- スポーツへの具体的な夢
- テストでの高得点追求
- 知識獲得への広範な関心
- デジタルクリエイターへの挑戦
- 仕事への具体的なビジョン
- 英語力向上への意欲
- お金の安心確保への意欲
- 資格取得への意欲

④ ポジティブ要素

メイン観点:挑戦への意欲(967件)

あきらめずにやり遂げる力や、新しいことへの好奇心を原動力とした、未来に対する非常にポジティブな意欲が強く感じられる。

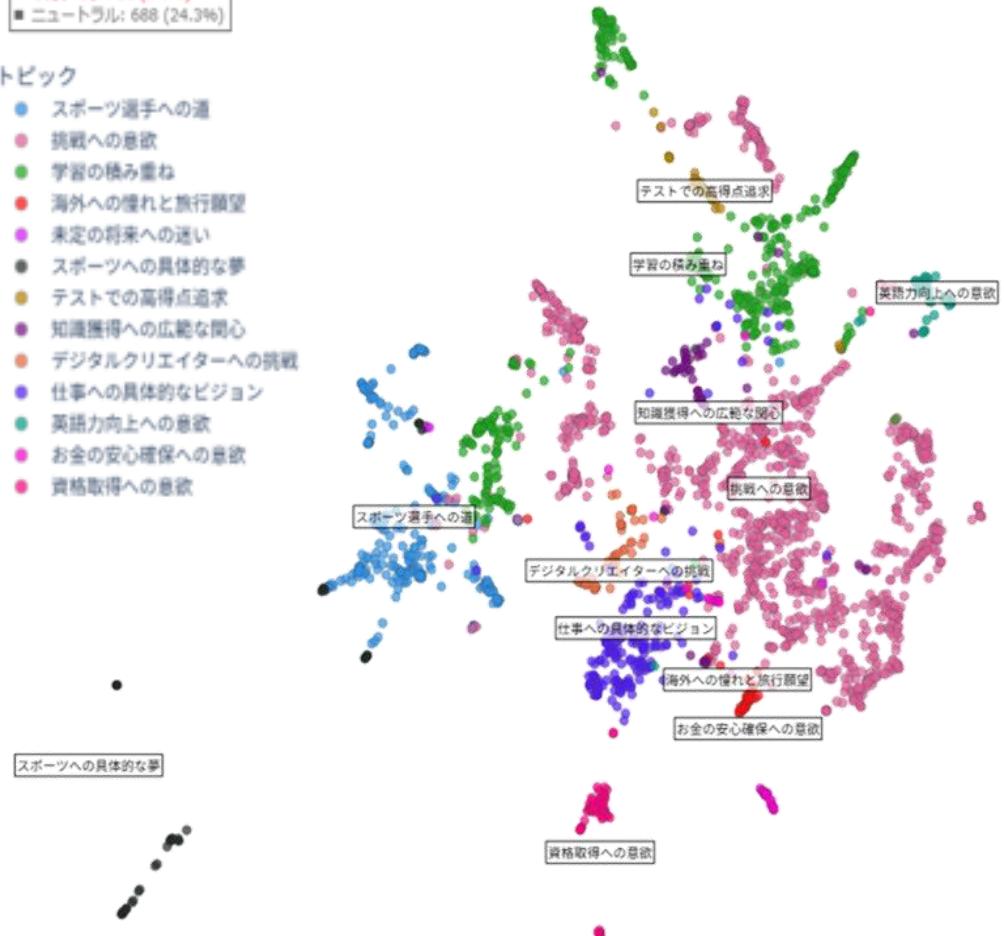
⑤ ネガティブ要素

メイン観点:挑戦への意欲(18件)

挑戦したい意思は強いものの、失敗への懸念や具体的な一步を踏み出すことへの不安といった葛藤が見受けられる。

△ 世代間ギャップ

低学年はスポーツへの熱意が目立ち、高学年から中高生にかけては学習習慣の定着や、具体的な進路選択を意識した努力に言及する傾向が見られた。



◎ 要約

多くの回答者が自己実現やスキル向上に意欲的であり、挑戦を通じた自身の成長を強く望んでいる。

年代ごとに具体的目標が変化する中、その前向きな意欲を支え、不安を解消する環境作りがポイントとなっている。

子どもの社会参画・意見表明

- ✓ 「意見をきいてもらえる」という意識は、年齢が上がるにつれて低下傾向。高2世代の「社会を変えられる」という自己効力感は、全国調査の17~19歳の回答と比較して約13ポイント低い。
- ✓ 意見表明手段は、小学生は同じ世代の子どもたちと話し合ってから伝えると回答した割合が多く、年齢が上がるにつれてSNSやインターネットを利用する傾向が強まる。

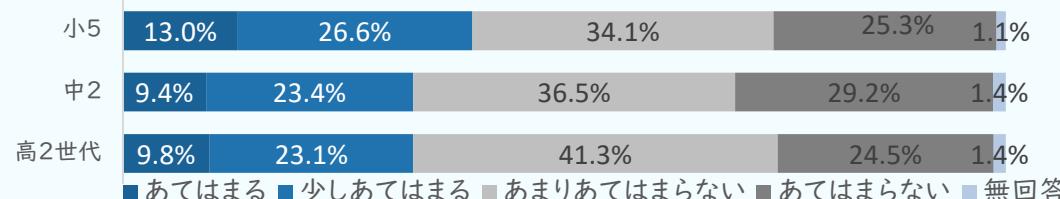
標本調査

小5(n=847) 中2(n=828) 高2世代(n=642)

【問】社会において、自分に関係することについて、意見や気持ちを聞いてもらえる



【問】自分の行動で、国や社会を変えられると思う



参考: 全国調査

【問】社会において、こどもが、自分に関係することについて、意見や気持ちを聞いてもらえると感じますか。

13~14歳 (n=87)	9.2%	33.3%	36.8%	20.7%
15~19歳 (n=345)	10.1%	35.7%	33.3%	20.9%

■感じている ■やや感じている ■やや感じていない ■感じていない

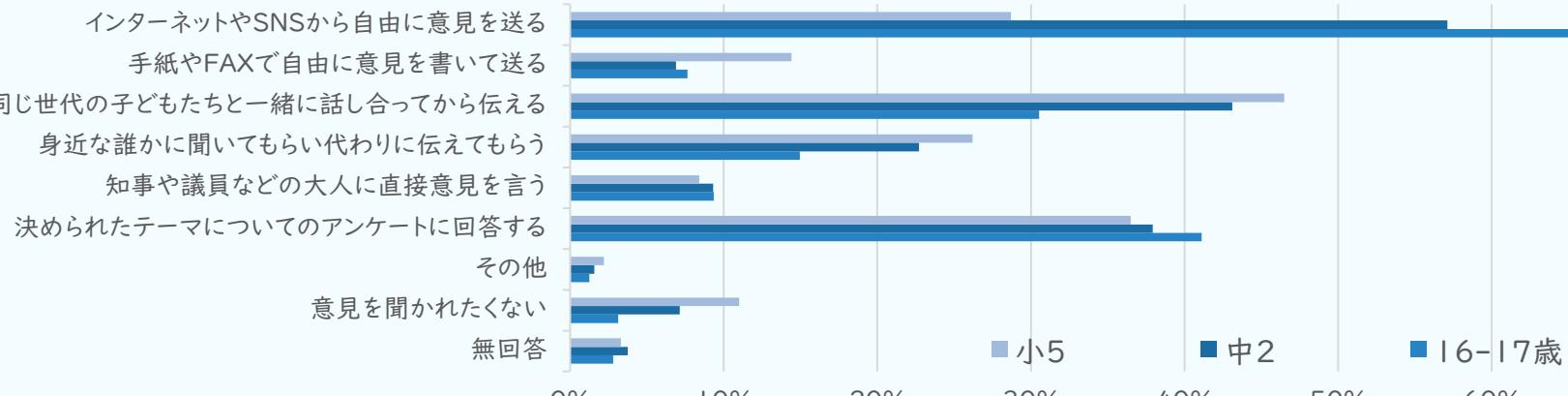
※こども家庭庁『R5我が国と諸外国の子どもと若者の意識に関する調査』調べ

【問】自分の行動で、国や社会を変えられると思う



※「日本財団『18歳意識調査』調べ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>

【問】意見を言いやすいと思うもの(複数回答)



生成AIによる自由記述分析結果

Q 関心の集中

メイン観点: 子どもとしての権利と選択肢 (812件)

教育や生活での自由、個性の尊重など、一人の人間としての権利を大切にし、意見を聞いてほしいという声に関心が集中している。

⊕ ポジティブ要素

メイン観点: 滋賀の魅力と課題 (220件)

滋賀の豊かな自然や住みやすさを肯定的に捉え、その良さを維持しながらより良い街にしてほしいという前向きな期待が見られる。

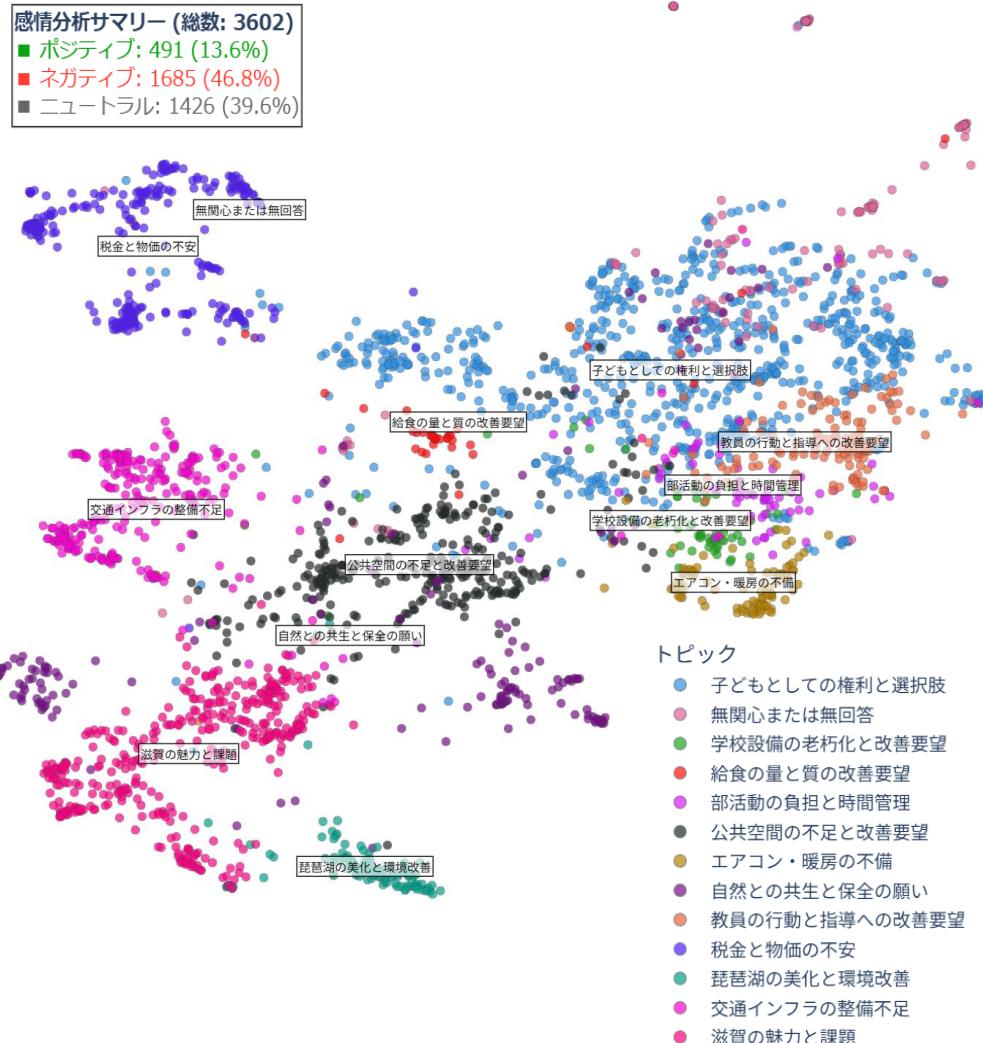
⊖ ネガティブ要素

メイン観点: 子どもとしての権利と選択肢 (554件)

大人の押し付けや不自由な環境に対する不満があり、子どもたちの主体性や権利が十分に認められていない現状への訴えが目立つ。

▣ 世代間ギャップ

低学年は身近なことに対する優しさや権利を求める傾向にあり、中高生は税金、交通インフラ、教育現場の課題など、社会制度への具体的な課題に言及する傾向が見られた。



◎ 要約

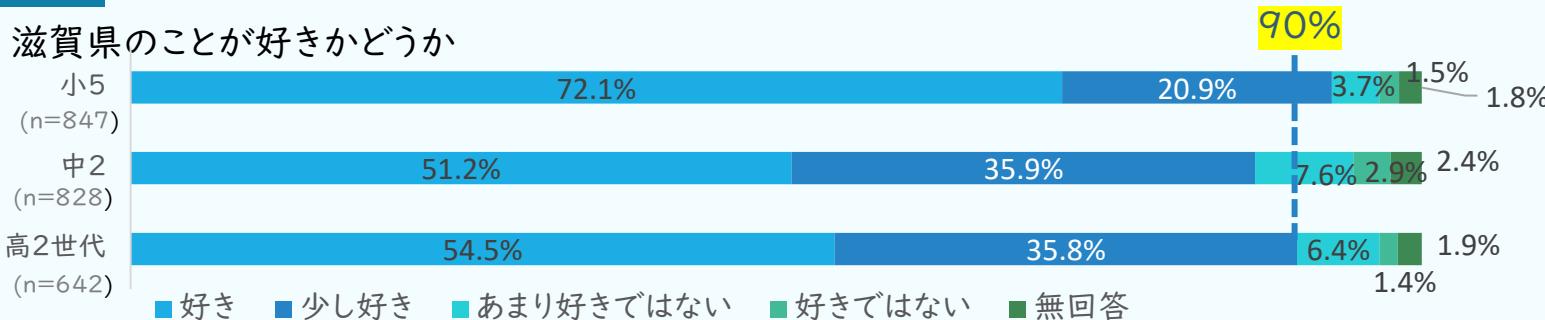
子どもを一人の人間として尊重し、対等に意見を聞く姿勢を求める声が全世代で共通している。豊かな自然環境への愛着がある一方で、不合理な校則や経済的不安の解消など、実社会の改善を求めるメッセージが示されている。

滋賀県のこと・住んでいる地域のこと

- ✓ 「滋賀県が好き・少し好き」と回答した割合は、全年齢で9割前後と高い傾向。
- ✓ 地域への要望については、小学生は「健康」「自然」等のより身近なテーマを重視。また、大人世代は生活の基盤となるサービスをより重視する傾向があり、中学生・高校生世代は、「公共交通」「観光振興」等を通じ地域の「活気」を求める傾向がみられる。

標本調査

【問】滋賀県のことが好きかどうか



【問】あなたの住んでいる地域でもっとこうなってほしい／力を入れてほしいと思うこと(上位5項目を抜粋)

	小5	中2	高2世代	【参考】大人 (県政世論調査)
1位	みんなが健康でいる 53.6%	みんなが健康でいる 37.3%	公共交通の活性化 29.1%	医療サービスの充実 49.7%
2位	びわ湖や山など自然を大切 にする 40.5%	電車やバスなどの交通の便を よくする 29.5%	観光振興 26.0%	公共交通の活性化 35.4%
3位	小さな子どもが安心して元気 に育つ 33.5%	運動やスポーツを楽しめる 28.5%	医療サービスの充実 24.1%	福祉サービスの充実 35.2%
4位	困っている人を助ける 33.3%	活気や人の行き来が増える 27.5%	教育の推進 20.4%	子育て環境の整備 34.4%
5位	地震や台風などの災害に備 える 28.9%	小さな子どもが安心して元気 に育つ 24.9%	子育て環境の整備 20.2%	防犯・交通安全 30.5%

滋賀県子ども基本条例の認知度

- ✓ 滋賀県子ども基本条例」の認知度は全体的に低く、約7割が「全く知らない」と回答。
- ✓ 内容を「よく知っている」または「少しだけ知っている」と回答した割合についても、各年代で15%未満に留まっており、条例の更なる周知・理解促進が必要である。

標本調査

【問】滋賀県では、子どもの権利が大切にされ、みんなが幸せに過ごせるように「滋賀県子ども基本条例」を定めています。あなたは、「滋賀県子ども基本条例」について知っていますか。

